

---

**さあさあさあさあ、**

郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さあさあさあさあ、

### 【コード】

N8054F

### 【作者名】

郎

### 【あらすじ】

旧友達に、あの故郷に会いたくなった！

君の笑顔は気持ち悪いねと、昔言われた事がある。

幼児の頃からの竹馬の友に、中学の時に言われた言葉。

ああ、あいつも中学も、どっちにしても懐かしいなあ。

ふいに目頭が熱くなった。

泣いてどうする、こんなことで。

私は自分を蹴り飛ばした。当然足は空に舞った。

それで転んで、膝をぶった。たいした痛みじゃなかったけれど、今はそれがやけに染みる。

「…ああ、そうだ。」あの頃の私に、あの頃の私になってみよう。私はふいに思い付いた。

一度でいい、故郷に帰ろう。懐かしい、親友達の顔がみたい。

荒唐無稽な考えだけれど、そうなった私を思い描けば、懐かし過ぎてさびしすぎて、鼻水と一緒に恋しさがとびでた。よだれがでるほどそうになりたい。

そうだ。

一度思い立ってしまえば、もう実行する他道はない。

のろのろと私は歩き出した。涙ぐみ、コンクリートの地面を蹴る。

何故だか出て来た涙達を吹き飛ばしたく、私は走った。

気づけば万札の入った財布を抱いて、私は家を飛び出していた。初心者な私の胸は、鼓動を激しくさせていった。柄でも無いのに、ドキドキした。

自転車ではなく、自分の足でただ走っている。風が気持ちいい、息が上がるのもきにならなかった。

駅に着いた。久しぶりに切符を買って、アナウンス頼りで乗り込んだ。駆け込み乗車は初めてだ。新鮮なことが嬉しくて、それだけで胸が熱くなる。

携帯電話も持たない私だ。旧友と合うだなど、何時ぶりだろうか。

窓越しに広がる、変わり行く景色に、胸が弾む。

さあさあさあさあさあ。

私の前に現われてくれ。私を焦がす、かつての景色！私が好きな、あのバカヤロウ共の顔！

私は一人勢いづいて、ひゃっほう等と、柄でない言葉が口から出る。今すぐにも、窓から飛び出してしまいたいその衝動、昂ぶり続ける気持ちを抑えて、私はニコニコニヤニヤと眺める。

さあさあさあさあさあ！

私の前に現われてくれ！私を焦がす、かつての景色！！私が好きな、あのバカヤロウ共の顔！！

(後書き)

超久々にこんにちは。

いつも通り、勢い百パーセントの独りよがり文章です。

しばらく書いてないこともあり、いつも以上に何も書けない今日の頃。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8054f/>

---

さあさあさあさあ、

2010年10月18日07時00分発行